

2. 合同体育による実践（サッカーによる実践）

中学部では朝の活動のうち、週2時間を合同体育としている。昨年度よりボール運動と取り組んできているが、その内容はボールをける、けたボールを追いかける、足又は手を使ったパス等、ボール操作の技術的な面に視点を当てたものであった。本年度は昨年度の指導を踏まえ、ボールを使ったゲームを中心に仲間で楽しんで取り組めるものを一年間、継続して行うことにした。

(1) サッカーをとりあげた理由

本年度は次のような理由で、サッカーをとりあげ指導を行っている。

- ① 昨年度よりボールをける動作に視点を当てているので、本年度もその指導を継続する。
- ② ゲーム中、絶えずボールの動きに対応して動くので生徒達が楽しみながら力いっぱい動ける場面を設定することができる。
- ③ チームプレーであり自分の仲間を意識させた動きをすることを求められる。
- ④ 体力的な面で敏しょう性、調整力、瞬発力等の向上にかなりの効果を期待できる。
- ⑤ ボールの不確実性（はずむ、転がる）を自分でコントロールする楽しさを味わえる。

(2) 指導上の留意点と指導計画

ボールをける動作ひとつをとっても、中学部の生徒にかなりの能力差が見られる。従って、ける動作がひとりでできる生徒（Aグループ）と、まだまだボールに対する関心が薄くける動作が身についてない生徒（Bグループ）の2グループに分け指導を行った。指導にあたっては、ボール操作の技術的な面にだけ視点を当てて学習を展開していくのではなく、ゲームの楽しさ、仲間との協力面を大切にしていこうようにした。又、Bグループの生徒に対しては試合場を狭くしたり補助具を使用させてボールをけらせたり、先生の適切な補助でゲームに取り組ませるなどの工夫をした。具体的には次のような指導計画を立てて取り組んだ。

指導計画（全10時間） ※ボール操作の指導後は常にゲームをするパターンを繰り返す。

第一次…いろいろなボールのけり方(5)→第二次…いろいろなルールでゲームをする(5)

第1時 ボールを思い切りける

第1時 2対2のゲーム

第2時 ドリブル

第2時 4対4のゲーム

第3、4時 シュート

第3時 5対5のゲーム

第5時 力試しのゲーム

第4時 7対7のゲーム

第5時 第1回サッカー大会

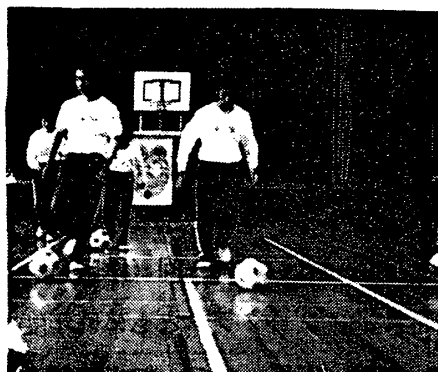
(3) 単元目標

- ① ゲームの楽しさを味わう。
- ② ボールをドリブルしたり、シュートしたりする。
- ③ ボールの扱いに慣れ、みんなと一緒に動く。
- ④ 順番や合図、約束等のきまりを守る。

⑤ 自分でボールを用意したり、片付けたりする。

(4) 学習（サッカー）の様子……… 1 単位時間

学習活動	Bグループの様子	Aグループの様子
<ul style="list-style-type: none"> ○ドリブルをする。 ○ドリブルしながらシュートをする。 ○試合をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○先生の声かけや援助で単発的にボールをけろうとする。 ○一連の動作は難しく先生にボールを止めてもらい、けった。ゴールへけろうとする意識はまだ小さい。 ○ゴール前で先生にボールをとめてもらい、うまくシュートして喜ぶ。 ○けろうとする意識はないがボールにさわれた時、喜んでいる。 ○「それ」の声かけでできることができたが、ボールを追いかけたい。 ○目の前にボールがきて、先生の声かけや補助があっても、関心をなかなか示してくれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボールを自分のからだから離れすぎないようにしている。 ○ドリブルしながら、力強くシュートをしようとしている。 ○ゴールへうまく入った時、うれしそうな表情が見られる。 ○自分が入れるゴールを絵をはりつけ明確にしてやることで攻める方向がきちんと分る。 ○ボールの動きに対応して動く姿が見られだしてきている。 ○自分のゴールを守ろうとして2人も3人も自主的にキーパーの役割を果たそうとする。 ○攻めきれない時、味方の友達にパスをしようとしている。 ○友達の持っているボールに対して、なんとかしてとろうとする。



[ドリブルをする]



[試合の様子]

Bグループの生徒は、まだボールに対する関心が薄くけろうとする意識が低い為にゲームを楽しむ段階ではない。Aグループの生徒の中でも個人差はあるが、友達とせり合っていこうとする姿、先生の声かけで味方の友達にパスをしようとする姿、ボールになかなかさわれなくても、とにかく後を追いかけていこうとする姿、先生の指示がないのに自主的にキーパーの役割をしようとする姿が見られ出し、ゲームらしくなっている。

(5) サッカーを通じた生徒の変容

まだまだ練習の繰り返しが必要だが、次のような生徒の姿が見られだしてきた。

- ① ボールを力いっぱい追いかけて、汗をブルブルかく姿が見られだしてきた。
- ② ボールになんとかさわろうとして、みんなが動こうとしてきている。
- ③ 自分のけったボールが、うまくゴールに入った時の満足した表情が見られる。
- ④ 休憩時間、体育館で友達と一緒にサッカーをして遊ぶことが多くなってきている。

(6) 今後の課題

Aグループの生徒にはゴールの個数とキーパーの配置等を配慮した場の設定とパスを多く使ったゲームの工夫、Bグループの生徒にはボールに関心が向くようにする為の工夫、先生の補助の仕方、ゲームのルールを工夫を配慮する必要がある。生活単元学習の中で育った仲間意識を大切にしながら、みんなが力を合わせて楽しく力いっぱい楽しめるボール運動を目指していきたいと考えている。